

株式会社一色本店

自社製品ネルパックの製造機器新設、及び販売拡大

お米の鮮度保持袋ネルパックは従来農家の自家保有米の保存用として評価されていますが、東北大震災以降、防災意識が高まり、防災用として一般家庭でも評価が高まり、販売市場が拡大した為製造機の新設を決定した。

事業取り組みの経緯

●一色本店の取り組み

大正13年7月創業で92年余りの業歴を有する当社は、当地で栽培が盛んであった各種果実向け包装資材の製造に始まり順次農業形態の変遷に併せて商品開発を手掛け、農業従事者のパートナーとして長年に亘る実績を積み重ねてきた。現在、扱い品目は42,000点に及び、四季を通じて様々な農作物の品質向上に役立つ商品開発の為に力を注いでおり、創業来改良を重ねた果実掛袋を始め、柑橘用被覆資材、害虫捕獲粘着紙、農作業用品等、数多の優れた製品を市場に輩出している。

「ネルパック」もそうした商品の一つであり、米の鮮度維持には欠かすことのできない無酸素保存容器として約30年前に開発された。

脱酸素剤エージレス・特殊バリア袋・封函器・保護紙袋から構成されており、脱酸素剤が袋内の空気中酸素を吸収することで無酸素状態とし、約一年間に及ぶ品質保存を可能としている。当製品は電気や機械を一切使うことなく余計なエネルギー消費を省いており、保管スペースも必要としない事に加え、追加の脱酸素剤を用いれば数年に亘って再利用が可能など、近年とりわけ重要視されるエコの観点からも優れた商品となっている。

もともと、保存袋の技術はみかんジュースを製造する際に製造後大型冷蔵庫で保管する必要があり、当社が常温で保管する為のシステムを開発していたことから、こうした自社技術を汎用してネルパックの商品化に至った。

●契機となった東日本大震災

販売初期は業務用である30kg袋を製造していたが、農家が一般個人へ販売する際に小分けを行う手間が生じることもあって、最少2kg袋まで計6種類のサイズを提供しており、更に30kg袋には数点のOEM製品もラインナップし様々なニーズに対応出来る商品体制を採っている。

ネルパックは長年の販売実績によって新潟県等の米産地の農家からも一定の支持を得るなど営業基盤は構築されたものの、米保存庫及び米冷蔵庫等の対抗品が出現したことにより、近年取引量は減少傾向を強いられていた。

しかし、平成24年3月東北地方を主な震源とする東日本大震災が発生、防災の一環として食料備蓄に対する社会的な関心が高まった事により、ネルパックは農業従事者のみならず一般消費者からも高い注目を浴びるようになった。マスコミに取り上げられるなど各方面で大きく取り上げられた結果、出荷数は前年比3倍となり、以降ブームは収束に向かうものの、引き続き例年水準以上の注文量が継続する状況が続いた。

こうした防災分野に於ける需要の高まりを受けて、開発初期から使用している製造設備の更新によって生産性向上を図ると共に、商品デザインも刷新して一般消費者にも受け入れられる商品へとリニューアルすることを目的として、この度新規投資が計画された。

実施内容

●製造ラインのリニューアル



ネルパックの製造ラインに関しては、機械の老朽化に加え、一部工程では従業員が自ら手作業で行う必要もあることから製造不良率が20%に達していた。

また、不良稼働も多く生産量は近年20%程度低下を余儀なくされるなど需要の拡大に相反する形で生産性が低下していた為、他シリーズの販売量を増やすことで売上を維持している状態であった。

そこで、新たに手作業を極力省いたオートメーションを採用することで、酸素を吸収するエージレスの注入時間を短縮してロスを大幅に減少、加えて製造機自体をプラスチック製として静電気の発生を無くし移送にも対応できるよう改良を施した。こうした改良により、生産効率は大幅に改善されると共に、ホットメルト(熱のり)を始めとする各所の均一化によって製品性能の向上も実現している。

●ネルパックのリニューアル



開発当初、ネルパックは農家の保有米保存用として考案された為、農家以外のユーザーを想定しておらず、業務用製品としてのデザインに終始していた。

しかし、既述の通り、東日本大震災を契機として一般市民の防災意識の高まりに伴い一般向け商材として新たな市場も生まれつつあることから、販路もホームセンターやスーパーなど、既存の営業基盤に含まれなかった対象を含んで拡大傾向に転じている。新たに一般個人を顧客として取り込む機会を得たことから、商品デザインも刷新することで消費拡大を図り、こうした需要を取り込むべく専門の事務所にデザインを依頼してより親しみやすい商品へとリニューアルした。

事業取り組みの成果

●生産性の向上



製造機の更新に伴い、以前は20%に達していた不良率が2%程度にまで大幅に改善された。こうしたロスを無くすることで生産量は大幅に向上しており、今後災害市場として位置付けている首都圏を始めとした新たな取引に於いても商品提供が可能な生産体制を構築することが出来た。

●作業時間の短縮

従来の製造ラインに於いては、従業員の手作業を必要としていた工程が数多くあったものの、最新マシンによって自動化が為され、供給量は4倍にも拡大するなど大幅な作業時間の短縮が図られた。加えて、自動化による精度の向上によって製品の均一化も促進され、以前の機器に比べ細かなトラブルが大幅に排除された。

これらの結果、作業工程に加わっていた従業員の負担軽減が為され、営業活動並びに品質管理に対して労力を割けることにもつながった。

●売上の増加

既存のネルパックの実績に関して、東日本大震災によって一時的な需要が拡大した平成23年度は82,500千円に達したが、その前後は概ね60,000千円内外で大きな増減が無く推移していた。

しかし、生産ラインの更新とデザイン刷新を施して以降は順調に増収基調に転じており、当初想定していた一般個人を含んで営業基盤は拡大傾向にある。

今後の活動予定

●既存顧客との関係性強化

農業機械化の進展に伴い、当社が販売先として関係を築いてきた農業従事者並びに関係組織や企業のニーズも時代と共に変遷している。そうした、現場の要望を汲み取り更に市場で必要とされる商品を開発する為に、生まれ変わったネルパックを通じて、各生産者との繋がりを更に密にしていきたい意向が聞かれる。これまで、数多くの商品が農業従事者の声から生まれてきたという実績もあり、この度のネルバックリニューアルを機に全国で400店以上を有する取引先の訪問を行うなど関係強化を進めている。

●災害市場への進出

設備更新に伴い生産性が大幅に向上したことに加え、消費者に受け入れられるデザインの刷新によって、首都圏を中心とした災害市場への販路拡大を目指す計画となっている。東日本大震災以降は量販店等を始めとして防災グッズの取り扱いが飛躍的に増加していることから、インターネット通販と併せて新たな顧客開拓にも積極的に取り組んでいる。

株式会社一色本店

■代表者／代表取締役 一色 恒平

■本社住所／愛媛県松山市間屋町4番28号

■URL／<https://a117.co.jp/>

■TEL／089-922-4141

■FAX／089-022-4188

■設立年月日／昭和37年7月

■資本金額／3,500万円

■従業員数／40名

■業 種／包装資材及び梱包資材の製造、農業用資材の製造、機器販売、パッケージプランニング

■工 場／本社工場

企業概要

大正13年7月先々代が松山市三番町に於いて「一色本店」の商号で個人創業。創業時は近隣農家に対する果実掛袋の卸売が主業であった。その後、柑橘果実を運搬するコンテナ及び出荷用段ボールなど様々な農業用資材並びに包装資材を開発して営業基盤を拡大してきた。

昭和37年3月法人改組に伴い株式会社となり、昭和47年3月に本社を松山市間屋町の現在地へ移転、業歴90年以上を誇る地場きつての老舗企業として知名度を有している。

主要取引先

全農えひめ 全農大分 DCM、コメリ、株式会社フジ、株式会社伊予鉄高島屋、井関農機株式会社、ヤマキ株式会社、帝人株式会社、東レ株式会社

主力商品



●果実袋

柑橘類の他、びわ・ぶどう・なしなど様々な品種に対応。耐久性・保湿性にも優れ、数年に亘って再利用も可能。



●ネルパック

当社の特殊技術を採用し、無酸素保存でお米の食味を維持すると共に防虫にも効果的。用途に合わせて10種類以上が製品化されている。



●トルシーネット

農作物に害を及ぼす害虫対策に用いられる。リケイ紙タイプで手の汚れも少なく、減農薬の一環として需要も多い。

主な設備

・製袋機・ネルパック製造機・シール機・トラック・フォークリフトなど

担当者	代表取締役 一色 恒平
連絡先	089-922-4141
連絡先E-mail	issiki@a117.co.jp